

## 大阪赤十字病院 精神神経科

人権センターニュースNo.108 より

(平成 23 年 12 月 6 日訪問)

平均在院日数 77.2 日 (平成 23 年 4 月～6 月)

### 積極的な取組など

- ・公衆電話の前にある権利擁護機関の掲示物の説明が、使う側にとって分かりやすいものだった。
- ・平成 24 年 2 月に各ベッドにテレビを導入していく予定。ニーズのあるものはなるべく認めていく方向で考えていきたいとお話もあり、そのような考えが病棟の雰囲気にも繋がっているように感じた。
- ・総合病院の中に病床が確保され、精神疾患と身体疾患の合併症状の患者を受け入れて対応されていたことを高く評価するとともに、そのような対応が他でもより広く行われる必要性を痛感した。

### 前回の訪問(平成 19 年 6 月)から改善されていたこと

前回は病棟内に意見箱がなかったが、今回はデイルームに意見箱が設置。「用紙は詰所まで」と書かれていた。また投書に対しては個別に対応しており、投書や回答が開示されるシステムにはなっていない。薬については、詰所まで取りに行くという患者と病室に持って来てもらうという患者がいた。

### 精神神経科病棟について

昭和 31 年設立以降、総合病院精神科として子どもから高齢者まで対応している。大阪府精神科救急制度における身体疾患合併症受入れ病院でもある。平成 23 年 3 月の東日本大震災後は、医師・看護師・心理職等で「こころのケアチーム」に参加し、石巻赤十字病院精神科を支援している。

病床は 42 床あるが、実際には 36 床で運用。訪問時の入院患者は 21 名で、合併症の重症度の高い人も多いとのこと。医師 6 名、正看護師 18 名、心理士 2 名、病棟事務 1 名、看護助手 1 名。当直医師は 60 代を除いた医師 4 名で 30 日をまわすと、7 回まわって来ることになって大変すぎ、医師の自宅に電話してもらって体制もあわせてとっている。看護師長から、現在看護師に 2 名の欠員がある以外に外来にも人を出しているのが精一杯とのこと。

### 入院・退院

入院前の外来の段階で病棟を紹介して患者の不安を軽減することもあるとの話や、退院前のカンファレンス等、在宅支援に対して積極的に取り組んでいる姿勢が見られた。退院に向け、地域のケアマネと連携した自立生活への橋渡しに取り組んでいた。

### 外出

院外まで外出ができる患者は 15 名で、外出時はノートに名前を書く。

### 金銭管理

床頭台の貴重品入れの鍵は原則自己管理で、管理ができない人は詰所で預かっている。

### 入浴・洗濯

入浴は週 3 回、職員が見守りながら 3 人ずつ入る。脱衣場から浴室まではバリアフリーで車イスのままでも入れるようになっていた。手すりは設置されているものの浴槽そのものは深い印象を受けた。

洗濯機等の利用時間は午前 9 時 30 分から午後 5 時まで。洗濯機が 1 回 150 円、乾燥機が 30 分 100 円でテレビカードで支払う。業者の洗濯は翌日配達で、品物毎の料金表があった。

### 病棟の様子

#### デイルーム

テレビが 1 台と本や雑誌、CD などがあつた。水やお茶は自由に飲めるようになっていた。多飲水の患者 1 名のコップを詰所で預かっていた。訪問時はカラオケが行われ、その後午後 3 時からラジオ体操をしたり、おやつを食べていた。

#### 電話

廊下の端に扉付の電話室があつた。携帯電話は電話室か面会室内で使用可能。電池で充電する。

#### トイレ

トイレトペーパーの予備や手洗い後の紙タオルもあつた。尿臭もなくてきれいだった。

#### 隔離室

2 室あり、使用中の部屋ではポータブル(コードレス)のナースコールが使われていた。扉に小窓があり、室外にカーテンがかけられていた。隔離室の奥の壁は透明の強化プラスチックの壁で、その奥の壁の向うは通路になっていて、その通路の外側には病院の建物の窓があつた。隔離室の奥の透明の強化プラスチックの壁にはビニールテープを使って目隠しが作られていた。隔離室の左右両側の壁は柔らかく、角はなかった。トイレ横には手洗いがあり、トイレトペーパーはホルダーが室外にあり、紙の先だけ室内に出るようになっていた。

#### 病室

訪問時はベッド間のカーテンを閉めて休んでいる患者が多かった。4 人部屋が中心、各部屋には洗面コーナーがあつた。ベッドには立上り用の手すりが

取り付けられていた。ベッド脇にポータブルトイレが設置されている所が多かった。

個室にはベッドとゆったりとしたソファ2脚があった。施錠はされているが、ベランダに出る扉と窓があることで室内は明るい。もともと内科の病床だったので、酸素吸入もできる。室内にトイレとシャワーもあるが、通常は施錠して使用していない。個室代は1日6,000円だが、支払えない患者や治療上個室が必要な患者からは徴収していない。

#### 患者の声

「入院2ヶ月。ご飯はおいしい。自分の希望するご飯の量はグラムで言う」「食事は午前7時15分、11時15分、午後5時15分で寝るのは午後10時。夜はお腹がすくけど仕方ない。おやつは午後3時だけ。買ったものは部屋には持ち帰れない。詰所に預ける」「入浴は月水金で15分位で入り、せわしない。それも慣れてきたが本当は身体を2回洗いたい。でも遠慮している」「入院1ヶ月半。お風呂は急がないといけな」「買物は付添いで行くか職員に買ってきてもらう」「職員は皆、とても親切。入院した時、出入口に鍵が掛かっているのがショックだった、牢屋みたい。先生は毎日来てくれる」「入院2ヶ月、ここはまあまあ。前の病院は良くなかった」「昼は歩行器でトイレに行き、夜だけポータブルを使っている。夕食は早い。薬は寝る前は詰所まで飲みに行くが、夜中の薬は持って来てくれる。退院の話などは先生に言う」「買物は週1回も行かないが、職員の手がすいている時に付いて来てくれる」「今日は私が入院してからは初めてのカラオケがあった」「今日のカラオケはリハビリがあったので行っていない」「いつもイヤホンでラジオを聞いている。洗濯は家族が持って来てくれる。電話は携帯を持っている」「外泊もできている。正月は外泊予定」「週に1~2回、主治医と本館まで院内散歩する。この前は本館のホールにあるクリスマスツリーを見てきた。気持ち晴れやかになった」「多飲水だからこのペットボトルの水を飲むペースを決めて飲むように言われている。最初はきついけど、だんだんペースがつかめる」「入院時にルール一覧が渡される。カミソリやベルトは詰所預かり。ルールだからしょうがない」

#### 検討していただきたい事項

##### 次回以降のサポーター活動でのお願い

訪問時、背広を着用した職員2名が、ずっとメモを取りながらサポーターに同行されたため、患者らが後ずさりしてしまった。サポーターが話を聞いた場合にも、患者が職員を気にしながらの受け答えとなるため、率直な意見を聞き取るのは困難な雰囲気があった。(病院: 当院では、実地指導あるいは行政機

関からの訪問・指導の実施に際し、企画課職員が窓口となり、訪問の際は、同職員が案内します。次回よりは席をはずし遠くから見守るという形をとります。)

#### 意見箱の活用について

「(意見箱に投書するための)用紙は詰所まで」と書かれていたが、用紙をもらいに行かなければならないということで投書意欲にブレーキがかかったり、用紙をもらいに行く段階で、ある程度本人が特定できてしまうのではないかと感じた。また投書に対しては個別に対応しており、投書や回答が開示されるシステムにはなっていなかった。(病院: 投書の用紙については、以前、紙などを食され、都度腸閉塞を繰返された患者も入院していたため、投書用紙も配置することをおこないませんでした。投書箱の近くに用紙を配置していく方向で検討します。病院全体としては、投書内容での質問と回答を公開する方式ですが、精神科病棟でも患者の個人情報の守秘に配慮しながら、投書内容での質問と回答を公開するという方式を導入したい。)

#### 男性トイレ入口について

男性トイレの入口について、扉もカーテンもないため、小用のトイレを使用している全身が廊下側から見えた。安心して使えるトイレにするための工夫をお願いしたい。(病院: 従来より精神科病棟において、転倒などトイレ内での事故が一番多く発生しました。本院の精神科病棟の設置にあたりましては、患者が利用しやすいスペースと明るさなどに配慮し、病棟の中心にトイレを配置しました。結果トイレ内の事故はほぼ皆無です。ただ廊下側からトイレ内が見えやすくなっております。安全対策に配慮しつつ、固定式のついたでの設置などプライバシーに配慮した構造に変更したいと考えています。)

#### 精神保健福祉資料より(平成22.6.30時点)

17名の入院者のうち気分障害が6名(35%)、統合失調症群5名(29%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害4名(24%)。入院形態は任意入院11名(65%)、医療保護入院5名(29%)。在院期間が1年未満の患者が14名(82%)、1年以上5年未満の患者が1名(6%)、5年以上10年未満の患者が1名(6%)、10年以上20年未満が1名(6%)。